

大阪大学図書館報

January 2010

vol. 43 no. 2 通巻 169号

発行所 大阪大学附属図書館 2010年1月1日発行

〒560-0043 豊中市待兼山町1の4

e-mail: kohowg@library.osaka-u.ac.jp



- ◆ 経済学研究科資料室へようこそ …P. 1
- ◆ 吹田キャンパス内文献取り寄せサービス開始 …P. 3
- ◆ 教員著作寄贈図書のご紹介 …P. 5
- ◆ News 図書館からのお知らせ …P. 5

経済学研究科資料室へようこそ

■シリーズ：資料室めぐり■

「はじめの一步」から研究書まで揃う資料室

経済学研究科資料室は、経済学研究科・経済学部にも所属する大学院生や学部生はもちろん、他学部や他大学の教員・学生からも多数利用されている資料室です。

OPAC（附属図書館オンライン蔵書目録）で検索した際、「配架場所」が経資または経資学生と表示される資料を所蔵しています。資料室には経済学・経営学研究のヒントが満載です。

豊中キャンパスの
文法経本館2階に
あります



最新の研究成果にアクセスする：雑誌閲覧室



グループ勉強会やソファでくつろぎながら
ビジネス雑誌の閲覧もおすすめ

経済学・経営学に関する約300種類の和洋雑誌を Economics/ Finance, Management/Science, History/Social Sciences の3分野に分けて、最新号から過去1～2年分を置いています。雑誌閲覧室の中をひと巡りすることで、主要ジャーナルとその最新論文を概観できるようになっています。他に、約30種類の統計書や白書などの最新号や、国内外の新聞9紙も閲覧できます。

Staff Files のコーナーでは、経済学研究科教員の論文の抜刷りを集めており、最近の研究動向をうかがうことができます。

授業の関連本も取りそろえています：図書閲覧室

主に学生のための図書を所蔵する閲覧室で、経済学部シラバスに掲載されている学習用図書などがあります。また、有価証券報告書、日経全文記事、株価CD-ROM、World Development Indicators（世界経済社会統計）、EconLIT（経済学論文検索）などのデータベースやインターネットをご利用できます（ご利用には経済のアカウントが必要です）。

本を閲覧しながらPCで
情報検索もできます



政府・自治体や国際機関の刊行物も所蔵：第1書庫

資料室の中にある階段を降りると第1書庫があります。電動書架に、洋雑誌バックナンバー、政府および地方自治体刊行物、銀行・証券・保険資料、年報年鑑、各国統計類などを収めています。他に、OECD（経済協力開発機構）、IMF（国際通貨基金）、WB（世界銀行）、UN（国際連合）など、他では所蔵の少ない国際機関の刊行物を所蔵しています。

ひとことアドバイス

統計・数値データを活用しよう

社会経済を分析するには、本や新聞記事などの二次的情報からではなく、基礎となる一次データにあたることが不可欠です。政府各省庁や、大阪府などの地方自治体から発行される数値統計資料、報告書、年報・年鑑などを、横断的にあるいは時系列で調査することで、新しくかつ正しい知見を得ることができます。

学会誌のバックナンバーをチェック！：第2書庫

資料室の第2書庫は、法経大学院総合研究棟 地下1階にあります。経済学・経営学に関する国内の主要学会誌、民間の団体・出版社などが発行する和雑誌、他大学から発行された大学紀要、日本経済新聞・朝日新聞の縮刷版などを所蔵しています。資料室カウンター（文法経本館2階）で、カードキーを受け取ってご利用ください。

お問い合わせ http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/library/global/g_shiryo.html

資料室には4名のスタッフがおります。ご利用の際はお気軽にお尋ねください。
鈴木敦子(助手) 小室知子(助手) 平野まどか(事務補佐員) 西田佳子(事務補佐員)
tel & fax : 06-6850-5270, e-mail : shiryo@econ.osaka-u.ac.jp

※資料室のコピー機を利用できます。

※ホームページでは利用案内の他、新着洋雑誌・新着図書・シラバス掲載図書・電子ジャーナル・CD-ROMなどもご案内しております。どうぞご覧ください。

阪大経済学部の「知」の系譜

『大阪大学経済学』と “Discussion Papers In Economics And Business”

資料室では図書・雑誌・データベースなどの利用提供の他に、学術成果物の編集事務を行っています。『大阪大学経済学』は昭和26年(1951)の創刊以来、経済学研究科教員を中心とする、経済学・経営学の優れた研究成果を掲載しています。

近年は大学院生による論文投稿も活発です。また、資料室では“Discussion Papers In Economics And Business”の受付を行っており、資料室ホームページ上に即日公開しています。

資料室では大阪大学経済学会の事務一般も行っており、入会を随時受付けています。

※ディスカッションペーパー 学術雑誌などに論文が受理・発表される前段階において、意見やコメントを幅広く得ることができるよう公開するものです。



(経済学研究科資料室助手・鈴木敦子)



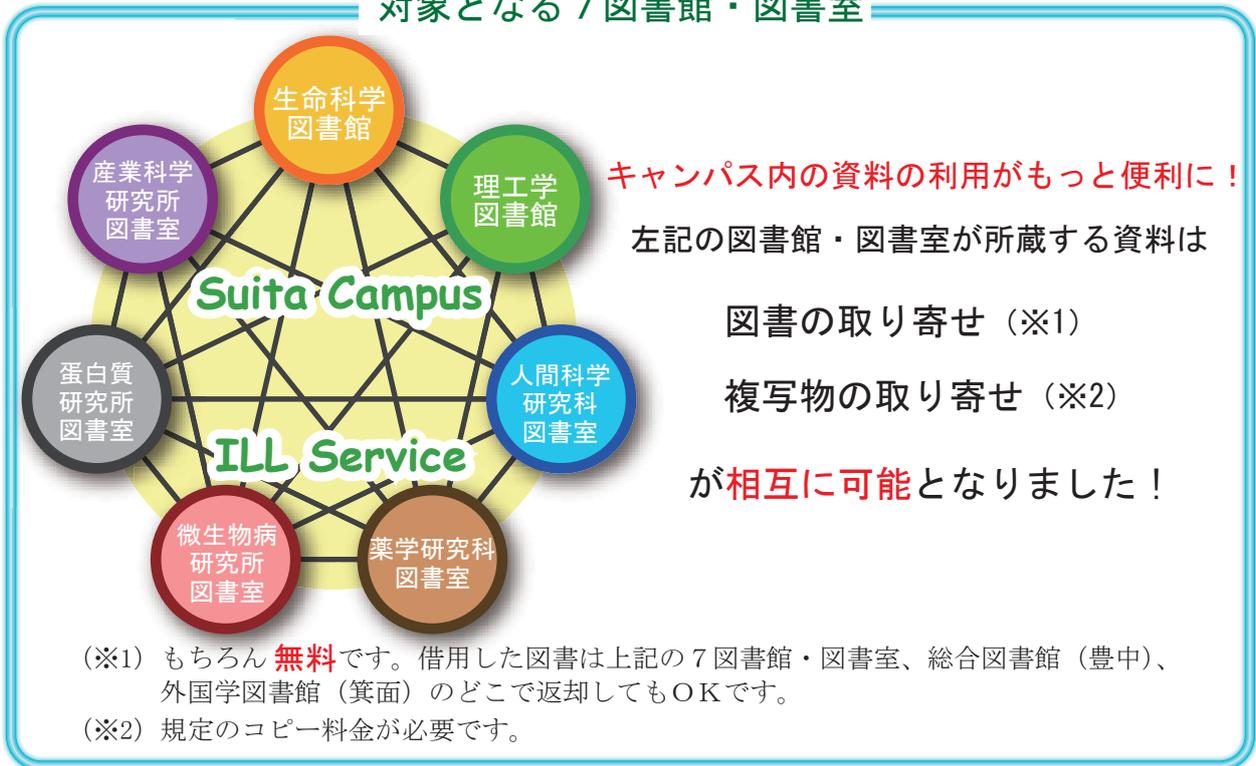
吹田キャンパス内 文献取り寄せサービス

2009.11.2 より開始 !!

7つの図書館・図書室が一体となって、お求めの文献をお届け！

これまで吹田キャンパス内では、お求めの文献を入手するために、所蔵館（室）に直接足を運んでいただいていたが、2009年11月2日（月）よりお近くの図書館・図書室への取り寄せが可能になりました。点在している7つの図書館・図書室が一体となって、お求めの文献を提供いたします。従来ご提供してきましたキャンパス間文献取り寄せサービスと併せて、ぜひご利用ください。

対象となる7図書館・図書室



例えば、こんなことが可能になりました！

- 工学図書館の図書もしくは文献複写物を生命科学図書館に取り寄せる（その逆もOK）
- 人間科学研究科図書室の図書もしくは文献複写物を工学図書館に取り寄せる（その逆もOK）
- 生命科学図書館の図書もしくは文献複写物を微生物病研究所図書室に取り寄せる（その逆もOK）

【注意点】

- 工学図書館－産業科学研究所図書室間はこの取り寄せサービスの対象外となります。
- 蛋白質研究所図書室、産業科学研究所図書室では私費による文献複写取り寄せ依頼ができません。
- 取り寄せ可能な文献は図書館・図書室所蔵の資料です。研究室所蔵の資料は原則として対象外です。
- 産業科学研究所図書室の資料は改修工事のため現在ご利用いただけません。

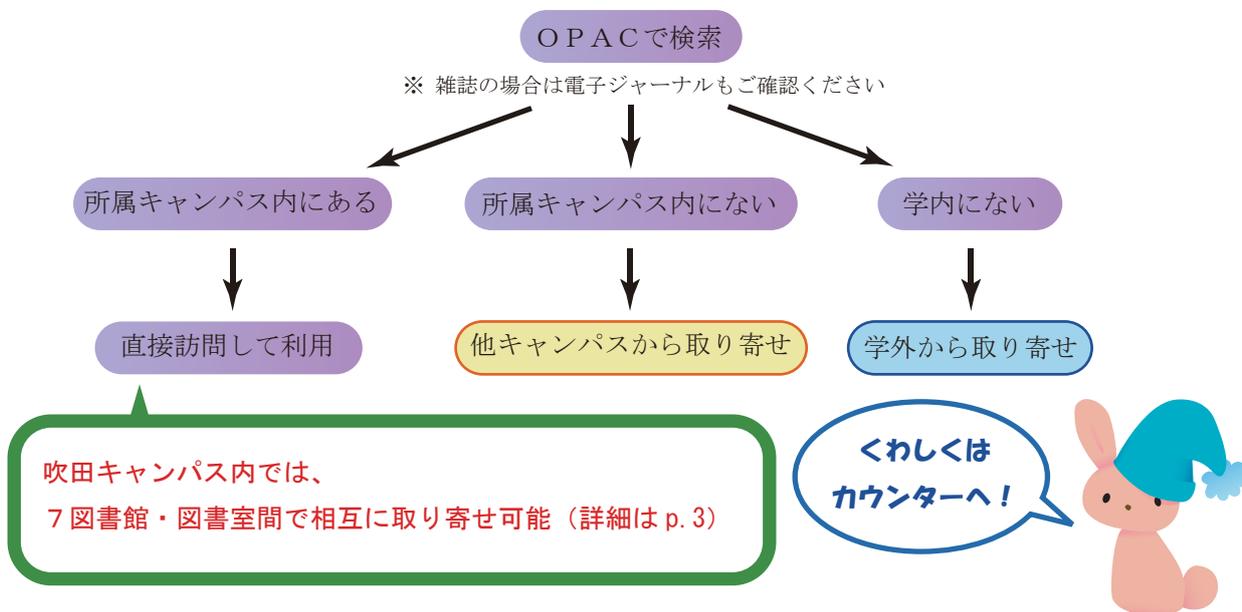
その他、詳しくはお近くの図書館・図書室にお問い合わせください。

文献取り寄せサービスを知っていますか？

お近くの図書館・図書室にないとわかった図書や文献複写を取り寄せるサービスです。

図書館・図書室のカウンターでお申し込みください。

Web 文献取り寄せサービスに登録すれば、Web 上で申し込むことも可能です。



他キャンパスから取り寄せ

| | | |
|--------|--|---|
| 料金 | 図書 | 無料 |
| | 複写物 | 複写料金のみ 1枚あたり 校費 モノクロ10円 カラー50円 私費 モノクロ20円 カラー60円 |
| 所要日数 | 1日～3日（研究室等にある場合、時間がかかったり、利用できない場合もある） | |
| 図書貸出期間 | 相手館の貸出条件による | |
| 図書返却 | 総合図書館、生命科学図書館、理工学図書館、外国学図書館、人間科学研究科・薬学研究科・微生物病研究所・蛋白質研究所・産業科学研究所の各図書室へ返却可能 | |

学外から取り寄せ

| | | | |
|--------|--------------------|----------|--|
| 料金 | 図書 | 往復送料 | ※ 相手館によって条件は異なります。 詳しくは図書館・図書室にお尋ねください。 |
| | 複写物 | 複写料金と送料 | |
| 所要日数 | 国内 | 通常3～7日前後 | |
| | 海外 | 1～3週間 | |
| 図書貸出期間 | 通常、郵送日数も含めて2週間～1ヶ月 | | |



【注意点】

- ・雑誌本体は取り寄せできません。雑誌は複写の取り寄せとなります。
- ・複写には著作権法による制限があります。
- ・文献取り寄せサービスは学内者を対象としたサービスです。



●●● 教員著作寄贈図書のご紹介 2009.Sept. ~ Nov. ●●●

| 寄贈者氏名（所属）※敬称略 | 書名 |
|--------------------|---|
| 古賀勝郎（名誉教授） | 北インドの諺表現集 |
| Paul A.S.Harvey（文） | Saint Paul 200 (MTMM series) |
| | Selections from Shakespeare III, IV (MTMM series) |
| タニヒロユキ（外国語学部） | 媒介言語論を学ぶ人のために |
| 稲葉章（理） | 熱力学要論：分子論的アプローチ |
| 平尾俊一（工） | 風の構図：和比古詩集 |
| 町村尚（工） | 生物環境気象学 |
| 佐久間修（高等司法） | Law practice 刑法 |
| | 刑法基本講義：総論・各論 |
| | 刑法総論 |
| | 新演習講義刑法 |
| 小川一夫（社研） | 「失われた10年」の真実：実体経済と金融システムの相克 |
| 竹蓋順子（サイバー） | これで分かる! 3 ラウンド・システムで徹底ヒアリング (HM アーカイブ・シリーズ;3) |



留学生対象オリエンテーションを実施

協定校からの交換留学生を対象とした図書館オリエンテーションを9月30日に総合図書館でおこないました。図書館の概要説明と館内見学ツアーを英語グループと日本語グループに分けておこない、双方あわせて93名の参加者がありました。

また、外国学図書館でも留学生を対象とした図書館オリエンテーションを10月8日におこない、97名の参加者がありました。



資料保護のための「食べ物厳禁」キャンペーン

総合図書館では、館内に食べ物を持ち込む利用者が増加しているというご意見に対応して、10月1日から『図書館内「食べ物厳禁」キャンペーン』を実施しています。

食べ物の残りカスはゴキブリなどの害虫を引き寄せます。ゴキブリは紙も食べてしまうため、図書に大きな被害をもたらします。図書館ではこのキャンペーンをとおして利用者のマナー向上を呼びかけています。



TAによるミニ講習会

総合図書館及び理工学図書館でTAによるミニ講習会をおこないました。総合図書館では、データベースの使い方や文献の探し方、理工学図書館ではデータベースの利用方法に関するもので、いずれも少人数を対象とした15分～30分程度の短時間の講習会でした。



総合図書館ラーニング・コモন্ズの授業利用開始

総合図書館では10月2日からラーニング・コモন্ズでの授業利用をはじめています。現在は試行中ですが、今後、関係規程等を整備していく予定です。



「カント・コレクション」展示会

総合図書館B棟2階のギャラリーゾーンで「カント・コレクション」の展示会を11月25日からおこなっています。本コレクションは、昭和62年度に文部省（当時）の大型コレクションの予算措置を受けて収集したもので、ドイツ観念論の創始者 Immanuel Kant (1724-1804) の初版本・翻訳本など620点722冊からなります。今回の展示会ではカントの代表的な著作を展示しています。



谷文晁筆「帰馬放牛図」が朝日新聞文化財団「文化財保護助成」に採択

谷文晁筆「帰馬放牛図」（懐徳堂文庫）は、かつて懐徳堂書院講堂を飾っていた襖絵の一部です。経年変化により資料の劣化・損傷が進んでいましたが、修復事業に採択されたことにより、往時の状態に復元されることとなります。また、修復と同時にデジタルデータを作成しウェブから公開する予定です。



第2回学生選書を実施

今年度第2回目の学生選書を10月21日から11月7日にかけておこないました。今回は書店店頭での選書ではなく、インターネットを活用し、選書データベースを利用しておこないました。参加者を公募したところ、文・人・法・経・理・基・薬・生命機能・工・情・外の各学部・研究科から29名の参加がありました。今年度第1回目の選書の応募者が9名でしたので約3倍の応募があったこととなります。学生の都合のよい時間帯に選書できるという点が応募者が多くなった要因と思われます。

ここで選ばれた図書は重複している図書等を除き、購入手続き等が済み次第、各図書館に配置される予定です。

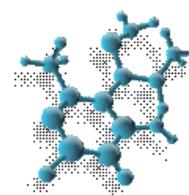


Reaxys（リアクシス）導入

化学のファクトデータベースとして、これまで CrossFire をご利用いただきましたが、11月2日から CrossFire の後継データベースとして Reaxys が利用できるようになりました。

Reaxys では、有機化合物データベース Beilstein、無機化合物データベース Gmelin に加え、特許から収録した化合物のファクトデータも利用できます。

CrossFire の利用には専用ソフトウェアのインストールが必要でしたが、Reaxys はウェブベースですのでインストールの手間も必要なくなりました。便利になった Reaxys をぜひご利用ください。



平成20年度年次報告・自己点検評価報告書を発行

標記報告書を発行しました。全文をウェブページに掲載していますので、ご利用ください。

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/nenzi/nenpoidx.htm>



理工学図書館でハンディキャップ対応工事を実施

ハンディキャップのある学生の利便性向上のため、理工学図書館西館北側階段に手すりを設置（9月2日完成）するとともに、エレベータの認証方式を改善（9月17日完成）しました。



改修したエレベータ



西館北側階段の手すり



対面朗読室オープン

11月6日から総合図書館で対面朗読室が利用できるようになりました。対面朗読室には対面朗読コーナーの他に拡大読書器を備えており、弱視等の視覚障害のある方が利用できます。

開館時間中はいつでも使えます。A棟2階メインカウンターで手続きをしてください。



拡大読書器



対面朗読コーナー



サイエンスカフェ第1弾「10年後の『大阪』」

総合学術博物館の橋爪節也教授、工学研究科の福田知弘准教授を講師として「10年後の『大阪』」をテーマとしたサイエンスカフェを10月28日に理工学図書館ラーニング・コモンズでおこないました。当日は学内の学生・留学生のほか一般社会人など約20名の参加があり、「大大阪」・「水都大阪」のイメージをもとに活発な討議をおこないました。



石濱文庫記念講演会を開催

附属図書館主催、箕面市立図書館後援による石濱文庫記念講演会を11月12日に外国学図書館AVホールを会場として開催し、学生・教職員のほか一般市民を含め120名の参加がありました。

石濱文庫は、東洋史学者で西域古文書学の第一人者であった石濱純太郎博士（1888～1968）の旧蔵書で、4万冊をこえる学会屈指といわれる東洋学コレクションです。モンゴル語、満洲語、西夏語、ウイグル語、チベット語などに関する資料が数多く収められています。

講演会では、モンゴル語学・言語学が専門の田中克彦一橋大学名誉教授から「石濱文庫が語る世界」と題する講演と東洋史・東洋史学が専門の堤一昭大学院文学研究科准教授から「石濱文庫の拓本コレクションー漢学から東洋学へー」と題する講演があり、漢学をはじめとして言語学、歴史学など幅広い範囲にわたる膨大な量と高い質の石濱文庫と、大阪の町人学者の伝統を受け継ぎ市井の学者であることに誇りを持ちつづけた石濱純太郎という人物の学問世界の広さと深さ、交友関係などが紹介されました。





第8回懐徳堂アーカイブ講座

懐徳堂記念会主催、大阪大学附属図書館共催で標記講座を11月17日に総合図書館でおこないました。今年、都留文科大学の寺門日出男教授を講師にお迎えし、「鑑定！懐徳堂一鷹作書画から見えること」と題した講演会の中で、鷹作を判断する際のポイントと懐徳堂資料に関連する諸々の興味あるお話しをうかがった後、書画の実物を見ながら鷹作を見抜くポイントを確認しました。

この講座は一般の方々にも広く公開されており、学外の方を含め37名の参加者がありました。



学術情報リテラシー教育担当者研修を開催

国立情報学研究所と大阪大学附属図書館との共催による平成21年度学術情報リテラシー教育担当者研修（大阪大会場）が、10月21日から23日の3日間にわたり、大阪大学附属図書館総合図書館を会場として開催され、国公私立大学の図書館職員54名が受講しました。

この研修は講義や事例報告、グループ討議を通じて、各大学等での学術情報リテラシー教育を企画・運営するための知識と技術を習得し、より効果的な実施を目指すことを目的としています。



DRF 地域ワークショップ（近畿地区）DRF-Mt. Machikane を実施

総合図書館で9月18日に標記ワークショップをおこないました。このワークショップは、機関リポジトリの設置・運営にかかわる実務研修を目的としており、近畿地区ばかりではなく、青森からの参加者もありました。また、国立大学ばかりではなく公立大学・私立大学からの参加もあり、全体で21機関から29名の参加者がありました。

当日は著作権の実務から資料電子化方法、メタデータ概論、アクセスログの解析、データバックアップ方法など、業務に必要な多様な作業内容のノウハウが参加館から紹介され、各機関の担当者が積極的に情報交換をおこないました。実務担当者にとっては、今後の事業を進めていくためのノウハウの共有が図れるとともに、今後相互に連携して事業を進めていくための極めて有益な機会となりました。

なお、ワークショップ関係資料は次のURLから公開されています。

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?Mt.Machikane>



OUKA（おうか）収録対象コンテンツの拡充



大阪大学の学術成果物を収集し、インターネットを通じて広く公開している大阪大学学術情報庫OUKAの収録対象を拡充していくことが10月21日の部局長会議で承認されました。

OUKAは、これまで本学の学位論文・紀要論文等を中心に収集してきましたが、今回の承認により、収集対象を学術雑誌掲載論文等を含めて拡充していくことになりました。

大学の学術研究成果を広く公開していくことについては、科学技術・学術審議会 学術情報基盤作業部会が7月に出した「大学図書館の整備及び学術情報流通のあり方について（審議のまとめ）」などでも「オープンアクセス」の推進として方針が示されています。また、2010年版の週刊朝日「大学ランキング」でも「機関リポジトリ」のランキングとして取り上げられるようになってきています。

学術研究成果の公開にあたっては、著作権に留意しなければなりません。OUKAでは図書館職員が必要な手続きをおこない、教員の方々にはできるだけ負担が生じないことを第一に考えて登録作業を進めています。OUKAの事業推進にご理解・ご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。OUKAに関する情報は、次のURLをご覧ください。

<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/>